

地域の支援者として 「いる」こと

(当事者性を問い直す)

「当事者」という言葉を、目にすることが多くなっています。
地域リハビリテーションの現場ではどうでしょうか？

「予防」のために地域住民への指導をする自分。
参加される方は自分より健康だと感じたり、
自分はどうかんだろう？と考えたり、そもそも地域って
健康な人たちだけで構成されていないよな…、
地域リハの当事者って誰なんだろうと考えたりします。

もしかしたら私たち支援者が「当事者」という言葉の中に
含まれていると違う景色が見えてくるのかもしれません。

「当事場をつくる——ケアと表現が交わる場所」を
出版され、本年度、池袋にある東京芸術劇場で、
その人なりの音と居場所をつくるワークショップを実践している
アサダワタルさんとともに、私たち医療職が地域でできることを
考えていきます。

当事者は
誰なのか？
支援者も含めて
考えてみる。



アサダワタルさん

アーティスト・文筆家
近畿大学文芸学部准教授



日程

2026年10月23日(金)
19:00～20:30

場所

ゆみのハートクリニック 二階 会議室
(〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目14-29 Kdx高田馬場ビル)



申し込み

<https://forms.gle/FSj1EQF532vgcJ7q6>

※オンラインとのハイブリッド開催

定員

25名(会場)

参加費

無料

主催 豊島区

運営 豊島区リハビリテーション従事者連絡会

お問合せ ゆみのハートクリニック金丸 (080-9544-2626)